

学類名	経済学類
-----	------

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。

- 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。
- 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。
- 現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。
- 高いコミュニケーション能力(外国語によるものも含む)、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。
- 地域社会が抱える問題に強い関心をもち、そこに積極的に関わることで人間性豊かな人材を養成する。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

【2015年度の入学者】専門科目として開講される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができる。しかし共通フレームワークとしての位置づけを持つ科目は、学類共通科目として選択必修になっている。学類共通科目は、数学系、原論系、経済史、学説・思想系の4領域から、それぞれ2.2.1科目以上、全体で6科目12単位を履修することが卒業要件となっている。3年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした卒業研究(4年次)の履修が可能である。また演習配属後に、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも8科目16単位を履修することが卒業要件となっている。

学類の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

1. 幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を捉える目を養う。
2. 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
3. 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
4. 企業組織のしくみと経営に必要となる知識を得る。
5. 国際経済・国際社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。
6. 現代経済社会が形成される過程及び背景を理解する。
7. さまざまな経済学説や理論を修得する。
8. 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の為に政策立案能力を養う。
9. 将来、社会の一員として働くことへの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。
10. 課題を発見し、自ら調べ、解決策を出す能力を培う。
11. さまざまな情報源(日本語以外で発信されているものも含む)から適切な情報を取捨選択し、活用に活用する能力を養う。
12. 社会に必要なコミュニケーション能力、IT能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	授業科目の主題 (この授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△
13101	経済学 I	経済学で用いられる基礎的な数学について学ぶ。	1. 初等的な解析学(特に微分法)の知識を身に着け、実際に様々な関数を微分できる。 2. 微分法を中心として数学的手法がどのように経済学に適用されるのかを理解できる。	1	*		○	◎							
13102	経済学 II	線形代数に関する基礎知識を学ぶ。	1. 行列を用いて連立1次方程式を表現し、解けるようになる。 2. 経済学や経営学に関する問題が数式で表現できるようになる。	1	*		○	◎							
13103	経済統計学A	経済分析に使われる統計手法の基礎を学習する。	基礎的な統計計算が一通り出来るようになる。	1	*			◎			△		○	○	
13201	理論経済学 I A	市場の仕組みを理解する	ミクロ経済学を学習する上で必要となる諸概念を理解することができるようになる。 1. 需要曲線の概念を理解することができるようになる。 2. 供給曲線の概念を理解することができるようになる。	2	*		◎	◎		△	△	○	○		
13202	理論経済学 II A	マクロ経済学を中心として経済学の基礎的な考え方や分析方法を学ぶ。	1. 市場経済の機能と基礎的なマクロ経済理論を体系的に身につけることができる。 2. マクロ経済に関する諸概念を理解し、自分の力でそれらを現実経済に適用し、議論を展開することができる。	1	*		◎	◎		△	○	○	○		
13203	現代経済理論A	資本主義経済の基本的なメカニズムを理論的に理解する。	1. まず専門用語をきちんと理解する。 2. そのうえで、用語を正しく使ってロジックを説明できるようになる。 3. 理論的説明に於いて簡単な数学的表現に慣れる。	1	*		△	○	○	△	◎	◎			
13301	日本経済史A	近代日本経済に生じた事象の因果関係を理解する。	1. 日本帝国主義を含む戦前日本経済の実相を理解できるようになる。 2. 事象を複眼的に捉えることができるようになる。	1	*		○	○		△	◎	△			
13302	西洋経済史A	ヨーロッパ経済史を通して経済学の基礎知識を学ぶ。	近代から現代のヨーロッパ経済の発展過程をたどることによって、 1. 経済学的な分析手法の基礎を習得することができる。 2. 現在のヨーロッパ経済の歴史的基礎を理解することができる。	1	*			◎		○	◎		△		
13303	アジア経済史A	授業科目の主題: 中国を例に近代アジア経済史の基礎知識を学ぶ。	近代アジアにおける資本主義的経済発展について再考することを目標とする。	2	*		○	○		○	◎		△		
13401	経済学史	経済思想の形成過程の検証	近代の成立とセットで成立した経済思想を学ぶことにより、近代の意味について考える。	1			○						○	◎	
13402	社会思想史A	現代社会を支える思想の歴史的な形成過程の検証	現代社会が抱える自由、平等、人権、マイノリティ問題等を考えるさいの方法的視野を広げることができる。	2	*		○						◎		
13403	政治経済学	資本主義経済の分析にあたって理論的・歴史的(制度的)・政策的視野をもつべきことを学ぶ。	時代背景をしっかりと踏まえたうえで、政策的意義や理論的ベースの妥当性を考えることができるようになる。	1			○		○				◎	○	
33002	総合講義	ゲスト講師の生の声を通じて、21世紀の地域社会のありかたを模索します。	現代の地域社会に対する的確な理解と課題に対する提言能力が向上します。	1	*		◎		△	△			△	◎	△
33011	演習			3-4	**								○	◎	◎
33083	卒業研究			4	**									◎	◎
33085	経済学外国語文献研究			2	*					○					◎
33087	インターンシップ	就業体験を通して経済学、経営学を実践的に学ぶ	1. 通常の学習と就業体験との結合ができる。 2. ビジスマナー等一般社会常識の習得ができる。 3. 就業観の形成ができる。	3	*		○						○		○
33107	現代経済理論B	20世紀以降の資本主義経済の長期動向に関する異端派マクロ経済理論を理解する。	1. 20世紀以降の資本主義経済の長期動向理論を理解する。 2. 特に「技術進歩」と「金融」の役割を理解する。 3. 資本主義経済の制度的・進化的アプローチとは何かを理解する。	2	*		△	○	○	△	◎	◎			
33109	理論経済学IB	不完全競争と市場の失敗について理解する	1. 市場における企業行動の特徴と問題点を理解することができるようになる。 2. 経済政策の考え方を理解することができるようになる。 3. 様々な経済問題を経済学の観点から理解することができるようになる。	2	*		◎	◎	△		△	◎	○		○
33111	理論経済学 II B	マクロ経済学に関する標準的な考え方や分析方法を体系的に学ぶ。	1. 標準的なマクロ経済理論を体系的に身につけ、それを論理的に説明できる。 2. マクロ経済に関する諸概念を理解し、自分の力でそれらを現実経済に適用できる。	2	*		◎	◎		△	○	◎	○		
33189	理論経済学 III A	ミクロ経済学の知識を基礎に活用ミクロ経済学を学びます。具体的には、都市経済学の理論と検証分析について学びます。	・都市政策や建築の知識を理解して、説明ができる。 ・ミクロ経済学の知識を取得し、都市経済学の考え方や手法を理解することができる。 ・問題意識を持ち、社会の問題をミクロ経済学の理論を応用して理解することができる。	2	*		◎	◎	◎		◎	◎	○		

33191	理論経済学ⅢB	ミクロ経済学の知識を基礎にミクロ経済学を学びます。具体的には、実験経済学の理論と実験手法について学びます。	・経済学の理論を再確認し、実験の手法について理解することができる。 ・実験に積極的に参加し、データ解析について理解することができる。 ・自ら問題意識を持ち、実験計画や解析方法を計画することができる。	2	*	◎	◎	◎		◎	◎	○						
33114	計量経済学	横断面データを用いた線形回帰分析手法	横断面データを用いた回帰分析手法が理解できるようになる。	2	*		◎								○	◎		
33120	統計学	資料の整理と推測統計基礎	統計学の基礎概念を理解する。種々の表を批判的に見られる。簡単なデータ処理が出来る。	2	*		◎				△				○	○		
33125	経済統計学B	経済分野ならではのデータに関する知識を得る。	主要な経済統計を読めるようになる。	2	*		◎				△				○	○		
33138	経済政策論	政策を支える理論がどのような時代背景やその時代の課題に応えようとして生まれてきたのかを考える。	マクロ経済学やミクロ経済学が、実際の政策とどのように結びつくのかを理解できるようになる。	2			○	◎			○	△	◎		△			
33140	金融経済論	金融取引の増加は人々の暮らしにどのような影響を与えるのか。金融取引と実物経済の関係を探るための基礎として、経済学を応用した金融取引や金融市場の考え方を講義する。	1.金融の基本的概念を理解することができる。 2.家計、企業の金融取引について理解を深める。 3.金融取引における金融機関や金融制度の役割を理解することができる。	2	*	○	◎	◎	○	◎	◎	△	○		△	△		
33143	金融制度論A	証券市場論、株式会社論	主要国(オランダ、イギリス、アメリカ、日本)の証券市場創成史、国民経済と証券市場との関連について一通り理解する。	2	*	○	○	○	◎	○	△		○	△	△			
33145	金融制度論B	証券市場論、株式会社論	有価証券(株式、債券)と企業金融について理解を深める。また、発展学習である敵対的買収と買収防衛策についても一通り理解する。	2	*	○	○	○	◎	○	△		○	△	△			
33147	社会政策論Ⅰ	現代日本の雇用と働き方・働き方が抱える問題点と改革の方策について、「雇用」に焦点をおいて考察する。「今日の雇用・失業・半失業の現状」、「雇用形態の特徴」、「雇用・失業問題を規定する背景と要因」、「雇用・失業に関する社会政策の展望」などを取り上げる。	・今日の雇用・失業の現状について統計資料を用いて分析する力をつける。 ・雇用・失業に関する社会政策は歴史的にどのように発展してきたかについて理解する。 ・雇用・失業政策をめぐる今日の対抗について理解するとともに、望ましい雇用・失業政策について自らの見解を持てるようにする。	2	*	○		○			△		◎	○	○			
33149	社会政策論Ⅱ	現代日本の雇用と働き方・働き方が抱える問題点と改革の方策について、「働き方・働き方」に焦点をおいて考察する。「雇用と働き方・働き方と労働基準」、「働き方と社会の問題」、「最低賃金制」、「労働関係と労働組合」、「働き方から見た男女平等」、「ディセント・ワーク実現に向けた社会政策の課題」などを取り上げる。	・日本の労働時間や賃金、労働関係、男女平等などをめぐる現状について統計資料を用いて分析する力をつける。 ・それらの日本の特徴及びそれを規定している要因について、諸外国との比較をとおして理解する。 ・労働時間や賃金、労働関係、男女平等に関する政策をめぐる今日の対抗について理解するとともに、望ましい政策について自らの見解を持てるようにする。	2	*	○		○			△		◎	○	○			
33151	社会保障論Ⅰ	社会保障の概念、存立根拠、機能と役割、歴史、経済・財政とのかわりなど、社会保障における総論部分の基本的な内容について取り上げる。	現代社会において社会保障が国民生活、国民経済とどのようにかわり、いかなる役割を果たしているのかを理解する。	2	*	○	△	○		△	△		◎	△	◎	○		
33153	社会保障論Ⅱ	医療保険、年金、介護保険を中心に、社会保障を構成する各制度の具体的な仕組みと現状及び課題について取り上げる。	社会保障の各制度について、具体的な仕組みを踏まえたうえで、それぞれの制度の政策課題について理解する。	2	*	○	△	○		△	△		◎	△	◎	○		
33155	財政学A	現代財政学の基礎	現代の財政問題と理論的に解明するための基礎を修得する。	2	*	○	○	△		◎	○	○			○			
33157	財政学B	財政学の現代的応用	財政のグローバル化など、現代の財政現象を理論的に理解できるようになる。	2	*	○	○	△		△			○		◎			
33159	地方財政論A	地方政府の歳入と税制	1.国と地方の財源配分の考え方と制度を理解する。 2.地方税の特質を理解する。	2	*	○	△						◎	○	○			
33161	地方財政論B	地方政府の歳出と公債	自治体の主要な歳出分野の内容を理解し、持続可能な財政運営を行う上での観点や手法に関する知識を得る。	2	*	○	△						◎	○	○			
33163	地域経済論A	グローバル化のもとでの諸地域経済の現状、課題、発展戦略	1.現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。 2.足下の地域の実態から経済社会の問題を解明する分析視角を養う。	2	*	○				○	○	○	◎	○	○			
33165	地域経済論B	地域経済学の理論、分析方法、地域政策の歴史	1.現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。 2.地域経済学と地域政策の歴史的な展開を理解する。	2	*	○				○	○	○	◎	○	○			
33167	生活経済論A	消費生活経済学の背景	1.生活経済学の理論的背景が理解できるようになる。 2.世界経済の中に、日本・地域での私たちの生活に関わる経済問題を、労働生活と消費生活の側面から、把握できるようになる。	2	*	○		○		△		○	◎	○	○			
33169	生活経済論B	消費生活経済学の新展開	1.生活経済学の新展開を理解する。 2.生活環境のあらゆる場面で主体的で自立した社会人となるために必要な知識の体系を身につける。	2	*	○		○		△		○	◎	○	○			
33171	環境経済論A	環境問題に対する経済学的諸アプローチの紹介	1.環境問題に対するミクロ経済学、マクロ経済学、社会経済学、エコロジー経済のアプローチを理解する。 2.環境問題に対する経済学的アプローチに対し、それぞれの視点の違いの意味を理解し、それらについてアプローチ間の批判的検討を行う能力を身につける。	2	*	△		○				○	◎					
33173	環境経済論B	環境政策の歴史と手法、主な政策の紹介	1.環境政策に対し、エコロジー経済学の自然科学的な理解をふまえ、効率性のみならず環境制約の視点から理解できるようになる。 2.さまざまな環境問題の発生を社会経済学的に理解し、効率性のみならず公正の視点で政策を検討することができるようになる。	2	*	△		○				○	◎					
33175	農業経済論A	農業問題に対する社会経済学的アプローチの紹介	1.農業と資本主義発展について、社会経済学的に理解する。 2.農産物価格、農業の技術と経営のかかわり、フードシステムについて理解する。	2	*	△		○			○		◎					
33177	農業経済論B	農業政策の歴史的展開と手法の変遷	1.農業政策形成の歴史的背景とその変遷について、社会経済学的に理解する。 2.農業の諸問題について知見を広げ、特に地域の視点から農業農村のあり方について考えることができるようになる。	2	*	△		○			○		◎					
33178	健康福祉論A	1.健康格差に着目した、健康政策の多面性について考察すること。 2.障がいのある人のスポーツの考え方や意義、課題等について、スポーツの文化的特徴や歴史的、社会的背景から考察すること。	1.個人の健康状態に影響を与える社会経済的要因について理解できるようになる。 2.障がいのある人のスポーツ参加の在り方(意義や方法)について、スポーツの文化的特徴を踏まえた観点から理解できるようになる。	2	*	◎				○			△					

33180	健康福祉論B	1. 事業型非営利組織としての総合型スポーツクラブの財源構造 2. 福祉社会における障がい者や高齢者向けの事業マネジメント	1. 事業型非営利組織としての総合型地域スポーツクラブの財源構造が理解できるようになる。 2. 障がい者や高齢者の特徴に配慮した事業の企画・立案のプロセスが理解できるようになる。	2	*	◎			○		△		△					
33187	労働経済論	戦後日本経済の歴史の変遷のなかで、雇用と働き方・働かせ方の現状と問題点、改革の課題について明らかにし、望ましい労働政策とは何かを考察する。	雇用と働き方・働かせ方の現状と問題点を捉える力を養う。 労働問題の諸事項(賃金、雇用の安定性、均等待遇、職場の安全、労働災害、過労死、職業訓練など)について理解し、望ましいについて自らの見解を持てるようになる。	2	*	○			△		○		◎		○		△	△
33301	経営学総論A	企業の形態とその構造、組織について	現代企業の仕組みと社会との関係を理解できるようになる。	2	*	◎	◎	○	◎	○			○	○	△			
33303	経営学総論B	現代企業の経営戦略とグローバル化の展開	現代企業がどのように経営戦略を立て、それを実行しているのか、情報化やグローバル化の視点から理解できるようになる。	2	*	◎	◎	○	◎	○			○	○	△			
33305	経営管理論A	経営管理理論の潮流	企業において経営管理がいかに実践されてきたのか、理論と実践の両面から理解できるようになる。	2	*		◎		◎	○	△	○						
33307	経営管理論B	日本企業の経営管理	日本企業がどのように経営管理を実践しているのか、その変遷と現状について理解できるようになる。	2	*		◎		◎	○				○	◎			
33309	生産システム論A	生産システムの概念を総合的視点から言及しながら、次世代へつながる知的生産システムの基礎理論・手法について講義する。	1. 生産システムの概念と原理について、理解できるようになる。 2. 次世代生産システムの実現のために求められる要件について議論できるようになる。	2	*			○		◎								○
33311	生産システム論B	生産システムの運営に関わる生産管理の考え方や技法について講義した上、その実例を紹介する。	1. 生産管理の概念と基礎知識について、理解できるようになる。 2. 生産管理の抱えている諸問題を明らかにした上で、その解決のための基本的な考え方や方法論について議論できるようになる。	2	*			○		◎								○
33313	経営情報論A	企業の組織と情報	企業の組織現象を情報に注目して理解する。	2	*		△	◎		○								○
33315	経営情報論B	企業の戦略と情報および情報の視点で見た企業の業務プロセス	企業の戦略行動を情報に注目して理解する。また情報システム関連誌の内容を理解できるようになる。	2	*		△	△		◎								
33317	ビジネス・ファイナンスA	コーポレート・ファイナンス	ファイナンスに関する基本的な知識や概念を実習等を通して体系的に身につけることを目的としている。	2	*				○	○								○
33319	ビジネス・ファイナンスB	パーソナル・ファイナンス及びポートフォリオ理論	ファイナンスに関する基本的な知識や概念を体理解できるようになる。	2	*				○	○								○
33321	会計学原理A	会計学基礎	伝統的会計実践の構造と機能を理解する。	2	*		○	◎		○								
33323	会計学原理B	会計モデルの記述・分析	現行会計モデルの理論的枠組み、特徴、および問題点を理解する。	2	*		○	◎		○								
33326	管理会計論	企業および組織の活動をコントロールするために使われる計数的手段	管理会計が、何によって、誰のために何をやるのかということが理解できるようになる。				○	◎		◎								
33329	財務会計論A	財務諸表の構造的な理解	会計情報の外部利用者として、財務諸表の情報内容について構造的に理解できるようになる。	2	*		○	◎	○	◎	△		○		◎			△
33331	財務会計論B	財務諸表に基づく経営分析	会計情報の外部利用者として、財務諸表に基づく経営分析が実行できるようになる。	2	*		○	◎	○	◎	△		○		◎			△
33333	情報科学A	情報化社会の発展の概要	情報化社会の発展のために、技術、政策、サービスの全体を理解する。	2	*	◎	○								○		◎	○
33335	情報科学B	情報(データ)分析の方法論	情報分析のための統計的データ解析に基づいた方法論を学ぶ。	2	*	○	◎								○	◎	◎	
33337	マーケティングA	マーケティングの考え方基礎理論を学ぶ	企業のマーケティング活動について、基本的な理解ができるようになる。	2	*	○	◎	△	◎				○	○	◎			○
33339	マーケティングB	マーケティングの知識を応用する	研究開発から市場までの一連の企業活動を理解し分析できるようになる。	2	*	○	◎	△	◎				○	○	◎			○
33341	経営戦略論	企業経営と戦略	企業経営における戦略の役割と経営戦略について理解する。	2	*		○		◎									△
33501	西洋経済史B	ヨーロッパ経済史を通して経済史の基礎理論を学ぶ。	古代から近代のヨーロッパ経済の発展過程をたどることによって、 1. 経済史から経済学のアプローチする手法を身に付けることができる。 2. 現在のヨーロッパ経済の歴史的基礎を理解することができる。	2	*			○		○	◎			△				
33505	日本経済史B	現代日本経済に生じた事象の因果関係を理解する	1. 戦後日本経済の実相を理解できるようになる。 2. 事象を複眼的に捉えることができるようになる。	2	*		○	◎		△	◎			△				
33507	アジア経済史B	近現代中国における資本主義化・工業化の特徴。	近現代東アジアにおける資本主義的発展の意義について理解することを目標とする。	2	*		○		○	◎				△				

33511	社会思想史B	現代社会を支える思想の歴史的形成過程の検証	現代社会が抱える自由、平等、人権、マイノリティ問題等を考えるさいの方法的視野を広げることができる。	2	*	○						◎								
33513	世界経済論A	20世紀の世界経済の展開	20世紀以降の世界経済の展開と概要を、経済理論、政治経済思想、豊かな国とそうでない国との関係性などを通じて理解する。	2	*	◎	△	△		◎	○	△	◎							
33515	世界経済論B	21世紀・発展途上国経済を巡る世界の動き	1. 発展途上国を中心に世界経済の現状について学ぶ。 2. 公的セクター、企業セクター、市民社会セクターの3つの視点から発展途上国支援策について理解する。 3. 世界経済および発展途上国経済を理解するための統計とその利用方法について学ぶ	2	*	◎	△	△		◎	○	△	◎							
33517	国際公共経済論A	国際公共財に関する総論・歴史と理論	1. 国際政治経済秩序の根幹を成す「国際公共財」につき、①「国際公共財」とは何か、②「国際公共財」の形成・発展過程について理解することができる。 2. 国際政治経済学の代表的理論について理解することができる。	2	*	◎		○		◎	◎	○	◎			○	○			
33519	国際公共経済論B	国際公共財に関する各論	国際法、国際機構、対途上国援助など、現代世界における主要な国際公共財について、具体的に理解することができる。	2	*	◎		○		◎	◎	○	◎			○	○			
33520	比較経済体制論A	戦後世界経済と経済システム・歴史的背景と現在	比較経済学に基づき歴史的・制度的視点から世界経済動向を理解し、現在を捉える力を養う。	2	*			○		◎	◎	○	○	○						
33521	比較経済体制論B	経済システムの国際比較	比較経済学に基づき世界各地の経済システムの特徴を理解し、現在を捉える力を養う。	2	*			○		◎	◎	○	○	○						
33523	環日本海地域論A	環日本海地域の環境問題を、二国間や多国間の様々な局面での考察を主題とする。	主題において要求される基礎知識と総合力を身に付ける。	2	*	◎				○			○			◎	○			
33525	環日本海地域論B	日本、韓国、北朝鮮、中国、ロシアという環日本海地域の諸国の領土問題や歴史問題を多面的に考察する事を主題とする。	主題において要求される基礎知識と総合力を身に付ける。	2	*	◎				○			○			◎	○			
33527	ヨーロッパ経済統合論A	EUの歴史、制度、課題に関する基本的知識を講義する。	EUとは何かを理解し、国際社会におけるEUの位置と役割が理解できるようになる。	2	*	○	○			◎	○					◎	○			
33529	ヨーロッパ経済統合論B	EUのかかえている応用的な問題、たとえば単一通貨をユーロの歴史と現状について講義する。	EUのかかえている問題と課題について、国際社会における現実との関わりで応用的に理解ができるようになる。	2	*	○	○			◎	○					◎	○			
33531	社会言語学A	日常的な日本語から日本社会を見る	日本語と日本社会との関連を見る目を養うことを目標とする。	2	*	○											○			
33533	社会言語学B	対応する場面で使用される日本語と外国語を比較する。	日本語と外国語の発想性の異同を分析できるようにする。	2	*	○				○							○			
33535	東アジア社会情報論A	東アジア社会における多民族社会化について学ぶ。	東アジア社会の多民族社会化問題について理解する。	2	*	◎				○	△				○	○	△			
33537	東アジア社会情報論B	東アジアにおける多民族社会化にともなう多文化・多言語について学ぶ。	東アジア社会の多様な文化・言語の現状について理解する。	2	*	◎				○	△				○	○	△			
33539	国際金融論A	国際金融の基礎構造	国際金融の基本的概念を整理し理解する。	2	*				◎	○										
33541	国際金融論B	国際金融史と現状の検討	現行制度の岩盤にある国際金融システムの変遷を理解し、変容し続ける現在の世界的課題を考察する。	2	*					○	◎									
33543	国際経済学	主流派国際経済学の検討	主流派国際経済学をその問題点も含めて理解する。	2	*	○	◎	○		◎		○	◎							
33545	アジア経済論	アジアの経済発展のダイナミクスを、金融経済、国際経済、開発経済の視点から講義する。	1. アジア地域の経済発展について、貿易・為替・金融・政府の役割を理解することができる。 2. アジア地域における経済統合化について、その特徴や地域内各国経済への影響を理解することができる。	2		○	○	◎	○	◎	○	△	◎			△	△			
33701	非営利組織論	非営利組織をめぐる理論、制度、内容を明らかにし、海外との比較も交えつつ、非営利組織そのものを包括的にとらえる。	非営利組織に関わる基礎理論、各種制度の内容、運営の方法をはじめとする一般的な事象を理解し、実際の活動事例や海外との比較においてそれがどのように関係しているのか、また、現在非営利組織が抱えている課題とは何かを総合的に理解する。	2	*	◎	△	◎	△	○		○	◎			△	△			